

ガリラヤ-そこであなたを待つキリスト！  
マタイ28:1-10, 16-20 (要旨)  
説教者 原田憲夫

「マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。」(1)

今日の箇所はここから幕が開きます。二人は主イエスの亡骸に防腐-塗油のためです。ところが、その墓の重たい墓石が転がされ、その上に主の使い(天使)が座っているではありませんか。主の使いは弟子たちに大切なメッセージを伝えるために「神から遣わされてきた」のでした。

イースターの朝、三つの事を心に覚えましょう。

【1】主イエスはよみがえられた (6)

ローマから派遣されて来た地方総督、時の権力者ピラトは主イエスに罪状を認めることができないと判断しながらも群衆の暴動を恐れ、主イエスを兵士に引渡しました。主イエスの十字架刑は正義が否定された瞬間でした。それは弟子たち、いや全人類が受けた失意と絶望の瞬間です。

ところが、今日、主の使いが伝えるメッセージは、この失意と絶望を打ち砕くのです。私たち人類にとって超え難い死の力を打ち砕くのです。

**「恐れることはありません。・・・ここにはおられません。・・・よみがえられたのです。」**

\*「エルサレム」の「聖墳墓教会」(葬られたとされる場所)のどこにも主イエスのミイラや遺骨はありません。ただ、主の使いが伝えたこの言葉が石に刻まれているだけです。

不安と恐れが広がる今、私たちにとって大事なことは、主の復活の力を知ることです。

e.g. 太宰 治の小説『人間失格』から；「死にたい、いつそ死にたい、....けがらわしい罪にあさましい罪が重なり、苦悩が増大し強烈になるだけなんだ。死にたい、死ななければならぬ。」

聖書をよく読んでいた太宰でした。自分の罪深さがはっきりと見えました。けれども、罪の赦し、罪に打ち勝つキリストの力を見いだせなかったのでしょう。

しかし、聖書に登場するパウロは、自分の罪深さに打ちのめされ、『人間失格』だと嘆き悲しんだ中で復活のキリストに出会い、こう語ります。

今まで自分にとって「得」であったものはすべて「損」と思うようになった。キリストとその復活の力を知って、キリストと同じ苦難と復活の恵みにあずかりたいと。(ピリ 3:7-11)

そして彼はこう断言するのです。

**「私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。」**(ピリ 1:21)

【2】主イエスはガリラヤで弟子たちと会うと約束された～再会～ (7)

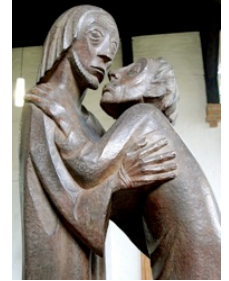
十字架を目の当たりにし、失望と絶望を味わった弟子たちの目の前で起きた出来事・現実-それが復活でした！(参照) Iコリ15:3-8。それを解き明かす場面が「ガリラヤでの再会」です。

e.g.バルラッハ作「再会」。

●ガリラヤでの再会！

「ガリラヤ」とは、主イエスが宣教を開始された地。多くの弟子たちが主イエスと出会った地。「わたしに従いなさい」と弟子たちを呼び出された地。

主イエスは弟子たちに呼びかけます。**「恐れることはありません。そこで-ガリラヤでわたしに会えます。」**



バルラッハ作「再会」

復活の主は「ガリラヤ」で弟子たちに再献身を促し、新しい使命を与えます。確かに、ここからそれまで逃げ腰だった弟子たち一人一人が「いのちをかけて」キリストの十字架と復活を証しし、キリストの「よき知らせ」を伝えはじめたのです。

【3】主イエスは世の終わりまで、いつも、私たちとともにいる (20)

思い出して下さい。あなたも同じように、「あなたのガリラヤの地」で主イエスと出会って今日まで歩んできたのではないのでしょうか。

闇から光へ。悲しみと不安の日々から喜びと平安の日々へ。(参照) ガラヤ5:22-23a。

しかし今日、あなたの歩みはいかがですか？不安と恐れ渦巻く中で、孤独の中で、一人苦しんでいませんか？

e.g. ロンドンのあるおばあさんの日記；「きょうも、だれも訪ねてくれなかった。」365日同じことが書かれていた。

●思い出して下さい。あなたが主イエスにお会いした「あなたのガリラヤ」を。そこで今、復活の主はあなたを待っておられます。

**「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」**

復活の主は、あなたが不安や恐れの中に居る今、疲れや重荷に喘いでいる今、その傷跡の残る手であなたの手を引き、あなたを背負い、あなたと歩まれます。あなたに新しい使命-福音の灯を託されます。

恐れるな！ さあ今、死からよみがえられたキリストの永遠の約束、いのちの灯を胸に、主の御手に導かれて進もうではありませんか！